【ｐ60～ｐ63】　風の学校　―中田正一―

１　資料活用にあたって

○　中田さんの海外での技術指導を支えた「我が国に課せられている役割と責任を自覚し、世界の人々から信頼と尊敬を得られるように努めよう」という気持ちに焦点をあてれば内容項目はＣ（１７）となり、その根底にある、人に対する思いやりに焦点をあてれば内容項目はＢ（６）となる。
○　先人の場合、努力を続けることは誰しもあることで、その努力のみ書いてある資料は、内容項目はＡ（５）で扱い、努力を続けることになった大きな夢が描かれている場合は、その夢で内容項目を定めるとよい。

２　資料の読み方のポイント

※　展開の具体例は内容項目をＣ（１７）で想定したものを示している。
○　主人公の変化を問う資料ではなく、主人公（中田さん）の生き方を貫くものを考える資料であり、中田さんの立場で場面を捉えていく。（子どもが「中田さん」になって考えられるように発問を工夫する。）
○　中田さんの生き方を貫いたものは、思いやりをもって、世界の人々から信頼と尊敬を得られるように努めようという気持ちであった。
○　資料冒頭の「西アフリカを走る列車の中で回想する場面」は、資料末の「西アフリカを走る列車の中で決意を新たにする場面」につながるが、最後に八十才の時の出来事であることが「種明かし」されている。

３　読み物資料の素材について

【参考文献等】

・　「風人たちの夏　ある国際協力の記録」、瀧井　博臣、八月書簡、１９９２年
・　ＪＡの子ども雑誌『ちゃぐりん』シリーズ：光をともした人びと⑧
　井戸ほりで国際協力　中田正一　　北川幸比古、社団法人　家の光協会、２００７年１１月号
・　朝日新聞「彼らの流儀」　風の学校Ⅰ、沢木　耕太郎、朝日新聞社
　１９９０年８月１２日、１９日
・　神戸新聞　我が心の自叙伝「中田正一」①～⑳、中田正一、神戸新聞社、
　１９９０年６月２７日～１１月７日　毎週水曜日掲載

○　中田正一について

・　１９０６（明治３９）年淡路島に生まれる。大学を卒業後、農林省に入り農業改良普及事業にかかわる。５７歳の時国際協力事業団専門家としてアフガニスタンに農業技術の指導に行ったのが、海外の農業とのかかわりの始まりであった。農林省を退職後、農業協力プロジェクトチームのリーダーとしてバングラデシュに赴任。その時、貧しくて食べ物が不足している国には、お金や食料、進んだ農業機械を持ち込んでもそのときだけの援助となってしまう。それを続けると、頼りにしてしまってその国が自立できなくなる。人が出かけていって、その国にあった技術をいっしょに工夫するのでなければ、ほんとうの援助ではないと考えるようになった。
・　１９８２年（昭和５７）年バングラデシュから帰ると、日本政府がまだ手をつけていなかった海外協力の人材養成の「風の学校」を設立し、生涯を国際協力に捧げた。

○　「風の学校」について

・　海外協力活動を目指す日本の青年達に農業の各分野にわたる技術、技能や井戸掘り技術などについて実際に体験して経験を積ませる学校。適正技術といって発展途上国の物資のない状況でもすぐに活用できる技術に重きを置いた。千葉県の上総掘りという昔ながらの手掘りの井戸掘り技術を研究し、海外の水不足で困っている地域で住民と共に何十本もの井戸を掘ってきている。

４　展開の具体例

風の学校　― 中田正一 ―

・主　題　名　・世界の人々のために　Ｃ（１７）

・資料の概要　・海外で農業技術の普及に携わり、水の確保の大切さを思い知った中田は、帰国後、日本で古くから伝わる技術を研究するとともに、農業技術で現地の人々に貢献できる人材育成をめざし「風の学校」を創設した。学んだ者が旅立つのを頼もしそうに見送る中田であったが、彼自身８０歳を過ぎても国際協力への熱い思いを持ち続けた。

・ね　ら　い　・西アフリカを走る列車の中で「まだまだ」と思う８０歳の中田さんの熱い思いを通して、わが国に課せられている責任と役割を自覚し、世界の人々から信頼と尊敬を得られるように努める道徳的心情を育てる。

・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本Ｐ６３の写真(現地の人々に指導する中田さんの写真)を見ましょう。
展開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・井戸の掘り方など日本の古い技術を研究していた主人公の気持ちを考える。	アフガニスタンから戻り、井戸の掘り方など日本の古い技術を研究する中田さんは、どんなことを考えていたでしょう。 ・作物が枯れて困っている国の人たちを助けてあげたい。 ・日本の優れた技術が世界中の困っている人たちの役に立てばいいのだが。
	・井戸が完成し、現地の人と両手で握手する主人公の気持ちを考える。	井戸が完成し、いっしょに働いた現地の人と両手で握手する中田さんは、どんな気持ちだったのでしょう。 ・井戸が完成して、現地の人たちの役に立てたぞ。 ・現地の人たちと一緒に喜びあえてうれしい。
	・「風の学校」で学んだ人たちを見送る主人公の気持ちを考える。	「風の学校」で学んだ人たちの頼もしくなった背中を見送りながら、中田さんはどんなことを思っていたのでしょう。 ・現地の人たちに信頼されるような仕事をして来いよ。 ・現地の人たちへの思いやりを大切にするんだぞ。
	・西アフリカを走る列車の中の主人公の気持ちを考える。	「まだまだ、わたしにはやらなければならないことがたくさんある。」と言いながら中田さんはどんなことを考えていたのでしょう。 ・農業技術を求めている人たちのために力をつくそう。 ・世界の人々から信頼されるようがんばろう。
終末	・感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。

現地で水の確保の大切さを痛感し、世界の人々のために役立ちたいという意識が主人公に起こっていることをおさえる。

世界の人々のために役立ち、信頼されることの大切さを実感している主人公の心に共感させる。

世界に旅立つ人たちを頼もしく感じながら、自分の思いを託している主人公の心を考えさせる。

「世界の人々から信頼され、日本に課せられている責任と役割を果たしたい」という心情が、80 歳の主人公を支え続けていることをおさえる。